

ぐんま老人看護専門看護師会の活動とその評価

河端 裕美¹⁾ 齊田 綾子²⁾ 戸谷 幸佳³⁾ 梨木 恵実子⁴⁾

1) 公益財団法人脳血管研究所附属 美原記念病院

2) 公立七日市病院

3) 特別養護老人ホームくやはら

4) 群馬県看護協会訪問看護ステーション

[取り組みの目的] ぐんま老人看護専門看護師会は、県内で活動する老人看護専門看護師(CNS)とこの資格取得を目指す看護師の知識・技術の向上を図ること、高齢者ケアの発展に寄与することを目的に、2014年12月より活動を開始した。

[取り組みの内容] 老人看護 CNS、A 大学大学院老人看護 CNS 教育課程在学学生および修了者を対象に年4回定例会を実施している。定例会では、事例検討、情報共有、研修企画の検討等を行っている。

[倫理的配慮] 本研究発表に関しては公益財団法人脳血管研究所倫理委員会の承認を得た。また、発表に関し利益相反はない。

[取り組みの結果] 本会は2017年11月までに計12回開催した。事例検討は10事例、情報共有は高齢者に関連する診療・介護報酬、自動車免許や死亡診断書に関する法改正等について行った。また、県内の看護職員認知症対応力向上研修に2回講師として参加し、教育を行った。本会発足後の老人看護 CNS 新規認定者は2名であった。

本会の目的の達成度を評価するため、①参加者8名(本会発足後の新規老人看護 CNS 認定者2名と A 大学大学院老人看護 CNS 教育課程在学学生および修了者6名)、②A 大学大学院老人看護 CNS 教育課程指導教員3名を対象にアンケート調査を行った。①からは「CNS としての思考や判断を学ぶ機会」「CNS の活動を考える機会」、②からは「在学学生・修了者と CNS とのネットワークの機能を担っている」「認定試験対策として機能している」との回答があった。

[考察および今後の課題]

ぐんま老人看護専門看護師会の活動は、大学院在学学生や修了者にとっては CNS の思考や活動を知り、将来のモデルを捉える好機になり、自身の活動のビジョンを描く機会になっていた。この活動が各々の組織での役割に応じて高齢者ケアの実践にどう還元され、どのような活動や成果に結びついたのかを明確にすることが今後の課題である。